

公共事業継続箇所評価調書

(様式5)

評価確定日(令和5年9月29日)

事業コード	R5-建-継-16	区分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業	部局課室名	建設部河川砂防課
事業種別	河川改修	班名	河川・ダム・海岸チーム(tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 齊内川	担当課長名	河川砂防課長 木次谷 英成
箇所名	大仙市長野	担当者名	チームリーダー 玉尾 毅
プランとの関連	戦略	防災減災・交通基盤	
	目指す姿	強靱な県土の実現と防災力の強化	
	施策の方向性	頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	H21~R11(21年)	総事業費	43.8億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長L=2,700m、計画高水流量Q=540m ³ /s(1/20)					
事業の立案に至る背景	齊内川では、過去に度重なる洪水が発生している。平成27年7月の洪水では堤防が決壊する被害が発生し、治水対策に対する地域住民の関心度が高く、河川改修に対する要望が高い地域であり、早急な治水対策の推進が必要となっている。					
事業目的	氾濫区域内には大仙市(旧中仙町)の中心部が存在し、家屋集積や道の駅、中学校等の公共施設、さらには国道105号、JR田沢湖島の重要施設が密集しているものの、治水安全度が1/5確率以下の区間もあり、災害の未然防止を図るため、河川改修を実施する必要がある。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増減	理由等	
	事業費	4,382,000	4,382,000	0		
	経費内訳	工事費	4,036,000	4,036,000	0	
		用補費	105,000	105,000	0	
		その他	241,000	241,000	0	
	財源内訳	国庫補助	2,191,000	2,191,000	0	
		県債	1,971,900	1,971,900	0	
		その他	0	0	0	
	一般財源	219,100	219,100	0		
事業内容	築堤工 鉄道橋	築堤工 鉄道橋				
事業の進捗状況	全体計画 43.8億円 令和4年度末投資額 34.0億円 進捗率 77.6%					
事業推進上の課題	平成29年度~令和4年度にかけて実施した鉄道橋の架替えに多くの費用を要したことから残区間の整備については、現河道を活用し環境保全対策との調和を図りながら、コスト削減を推進し、事業の進捗を図っていく必要がある。					
関連する計画等	新秋田元気創造プランにおいて、県が継続的に取り組むべき基本政策「防災減災・交通基盤」の施策の方向性③の「頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進」に位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	鉄道橋の架替えに多額な費用を要したほか、県全体での予算制約と全県域での浸水被害を受け、事業の早期完成について地域住民から強く望まれている。					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川改修済み延長 / 要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	46.6%(R4末目標)	データ等の出典	河川砂防課調べ		
	実績値 b	46.7%(R4末実績)				
	達成率 b/a	100.2%	把握の時期	令和5年3月		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	氾濫区域内には大仙市 (旧中仙町) の中心部が存在し、住宅密集地や中学校等の公共施設、さらには国道105号、JR田沢湖線等の重要交通網の集積しており、河川改修の必要性は高い。	30点
緊 急 性	当該河川は、流下能力が不足する区間が存在しており、重要水防区域にも位置付けられていることから、緊急性は高い。	13点
有 効 性	現河道をそのまま保全するため河川環境を改変せず、道の駅「なかせん」に隣接する桜並木を保全することが可能であり、有効性が高い。	12点
効 率 性	事業の費用便益比は21.38であり、効率性は高い。また、現河道を取り込み、既設堤防を利用した改修計画であり、経済性に有利な計画であるほか、事業計画を総点検し、既設橋梁の活用や線形の見直し等を検討するとともに、河道掘削により発生する残土を盛土材として使用するなどしてコスト削減に取り組んでいる。	15点
熟 度	真木ダム建設中止に伴う治水代替対策として、大仙市及び地域住民の関心度及び要望が高い。	23点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ)	93点
	地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき。	
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に務めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (R5-建-継-16)
箇所名 (一級河川 齊内川 大仙市長野)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	681戸	
			10戸以上49戸以下	7			
			9戸以下	3			
	浸水面積		60ha以上	10	10	438ha	
			10ha以上60ha未満	7			
			10ha未満	3			
	重要な公共施設		3施設以上	5	5	中仙中学校、 中仙小学校、 大仙中仙支所、 広域消防中仙分署 等	
			1施設以上	3			
			なし	0			
	整備計画の策定						
関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5	R2.3		
		協議中であるが特段問題ない	3				
		策定に着手していないが予定がある	1				
		予定なし	0				
計				30	30		
緊急性	災害発生の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	10	31% (現況166/計画540=0.31)	
			40%以上60%未満	7			
			60%以上	5			
	秋田県水防計画	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	R5水防計画書より区分B	
			評定基準区分B	3			
計				15	13		
有効性	河川整備の有効性						
	安全度		災害防止等効果が発現する	7	7		
			災害防止効果は現状と変わらない	0			
	親水性		安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸 高水敷整備	
			親水性は現状と変わらない	0			
	地域開発の状況		都市計画区域の存する地域	3	0		
		地域開発の計画がある	1				
計				15	12		
効率性	事業の投資効果						
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	21.38	
			1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減						
	該当項目数		3項目以上	5	5	既設橋梁や頭首工の活用、 法線見直し、 残土の他工区流用	
			2項目	3			
			1項目	1			
		なし	0				
前回計画との比較							
前回計画事業費からの縮減		減少または10%未満の増加	5	5			
		10%以上30%未満の増加	3				
		30%以上の増加	0				
計				15	15		
熟度	地元の状況						
	地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5		
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3			
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1			
	市町村の参画		積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	要望書H29.10月 大仙市	
			参画している	3			
			参画していない	0			
	事業の進捗状況						
	進捗率 (事業費)		8割以上完了	10	8	(R4)34.0/(計画)43.8 =77.6%	
			5割以上完了	8			
		1割以上完了	5				
		1割未満	2				
環境との調和への配慮状況							
環境保全への配慮 (秋田県公共事業環境配慮システムでの 環境配慮事項)		3事項以上	5	5	・工事影響範囲が最小になる計画 ・排出ガス対策型車両や機械の採用 ・法面等の緑化の実施 等		
		1事項以上	3				
		環境配慮事項がない	0				
計				25	23		
合計				100	93		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		